

令和 2 年度 学校評価 総括評価表

徳島県立徳島聴覚支援学校

徳島聴覚支援学校の経営方針

(1) 徳島県教育の基本方針

とくしまの未来を切り拓く，夢あふれる「人財」の育成
「徳島ならではの」教育により，大きな夢や高い目標をもって，困難にぶつかっても挑戦し続け，未来を切り拓いていく，本県の宝である「人財」の育成を目指します。

(2) 徳島聴覚支援学校の使命

徳島聴覚支援学校は徳島視覚支援学校と同じ校舎内に独立して併置する全国でも類のない学校として，両校が「つながる」を合い言葉に連携・協働し「幼児・児童生徒の夢と希望につながる保育・教育」を行うとともに，県内唯一の聴覚障がい教育，視覚障がい教育を担う学校としての役割を果たし，「共生社会の形成につながる特別支援教育」を推進します。

(3) 私たちが目指す学校

私たちは，聴覚障がいについて正しく理解し，子ども一人一人の個性を大切にして，日本語習得を基盤に据えた人間形成のための教育を進めます。

(4) 本年度の具体的な目標

- ① 人権意識に基づく幼児・児童生徒指導の徹底を図ります。
- ② 幼稚部から高等部の縦のつながりを大切にした活動をとおして，他者とよりよくかかわる力を育てます。
- ③ 日本語で思考できる力を高めるために，教職員の指導力を向上させます。
- ④ 関係機関と連携をとりながら，聴覚障がいに対する専門的な支援を行い，聴覚障がいや本校の理解啓発に努めます。
- ⑤ 発達の段階に応じた勤労観を身に付けるため，日常生活や職業体験，進路指導等を充実させます。
- ⑥ 保育や授業等，寄宿舎生活をとおして得られた幼児・児童生徒の成長を保護者と共有し，連携を深めます。
- ⑦ 併置する徳島視覚支援学校や地域と連携し，防災避難施設としての役割を充実させます。
- ⑧ 会議や業務の効率化・精選により，授業準備の時間の確保と，教職員の時間外勤務の短縮に努めます。
- ⑨ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業改善を行います。

		①「発表や対話の場面を設けて活性化を図り，主体的・対話的に学ぶ授業改善ができた」と回答する教員の割合を 80 %以上にする。 ② 80 %以上の児童が，自分の考えを進んで発表する回数を増やすことができる。 ③学習発表会で，80 %以上の児童が聞き手を意識して話し方や内容を考え，発表できる。	増やすことができた。 ③ 11 月に保護者参観日を兼ねて学習発表会を実施した。発表内容は，自分たちで発表したい内容を考えて決めたり，日頃の学習をまとめたりして，友達や教員，保護者にわかりやすいように工夫して発表した。聞き手を意識して話し方や内容を考え，発表できた児童の割合は 89 %であった。	が自分の発表したことに対する他者評価を受ける機会となり，他の学年の友達や教員，保護者に褒められたことで自信をつけることができた。	う。今年度は密を避けるため，特に集団活動が制限された。今後，ICT を活用する等の工夫をして集団活動の場面を保障し，積極的な話し合い活動ができる環境をつくっていく必要がある。
--	--	---	--	--	---

【中学部】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学 校 関 係 者 の 意 見	
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業改善を行います。 【⑨】	個々の学習課題を適切に捉え，主体的に学習に取り組めるような環境を整える。	活動計画 ①朝学習の時間を設定し，生徒が主体的に学習や課題に取り組める環境作りを行う。 ②生徒一人一人の特性に配慮した支援の在り方について検討し，学部全体で支援する。 評価指標 ① 8：30 から朝の学活の間の 10 分間を「朝学習の時間」に設定し，生徒の学力や課題にあわせた活動をさせることができる。 ②学部全体で，生徒の特性に配慮した支援ができるよう，学期に 1 回以上情報交換を行う。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度 ① 8：30 までに登校できている生徒については,8：30 から 10 分間，それぞれの課題に取り組むことができた。学級担任や教科担任が，個に応じた課題を準備し，朝学習に取り組める環境を作ることができた。 ②学部研修の 2 回に 1 度，ケース会の時間を設け共通理解を図り，学部全体で生徒の特性に配慮した支援体制を作ることができた。	総 合 評 価 （評定） A ----- （所見） 「朝学習の時間」は定着してきたと思われるが，更に定着できるようにするため，引き続き実施していきたい。	今年度は担任や教科担任が準備した課題に取り組んだ。自己採点後に自己評価をして，自分の学力や達成度を把握できるような支援や，次の課題や学習内容や方法を自ら見つけられるような工夫をし，自ら意識的に学習できるような体制を整えていきたい。

【高等部】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学 校 関 係 者 の 意 見	
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業	希望する進路に沿った資格や検定・模擬試験等に主体的に挑戦し，目標が達成できるよう指導	活動計画 ①生徒個々の進路目標に沿った，資格や検定の情報等について，収集と生徒への提供を行う。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度 ①生徒に応じた資格・検定の情報を，個別に案内したり，廊下に掲示したりして，	総 合 評 価 （評定）	様々な資格などの目標設定をして短期で成功するようなりモチベーションを上げるような取り組みは自分たちだけで

改善を行います。 【⑨】	する。	②合格等に向けた指導（補講等）や課題の提供を行う。 ③昨年度の自己記録を上回る級の検定や資格試験，模擬試験に挑戦するように勧める。	生徒に適切に情報提供することができた。 ②合格等に向けて，資料提供や放課後の学習を実施することができた。休み時間ごとに質問に来る積極生をみせる生徒もいた。 ③漢字，パソコン等の検定に7名が挑戦し，昨年度の自己記録を5名が上回る事ができた。 ・	A ----- (所見) ほぼ全員の生徒が資格・検定に挑戦し，自己記録を上回ることができた。受検級や段階が高くなりクリアしにくくなったり，新型コロナ感染症の関係で，外部での受検が難しくなったりしているが，継続して受検を勧めていきたい。	はできない。先生がいてできること。それをどう生かしていくのかと言うことが一番大事だと思う。	るが，就職や進学につながる資格等を生徒に提示できるように努めたい。
		評価指標 ①生徒個々に適切な資格・検定等の情報を年間1回以上提供することができる。 ②検定等の合格に必要な課題を各検定前2か月の間，1週間に1回以上提出させることができる。				

【渉外安全課】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学 校 関 係 者 の 意 見	
併置する徳島視覚支援学校や地域と連携し，防災避難施設としての役割を充実させます。 【⑦】	本校が防災避難施設としての役割を果たすために，災害避難時に備えて，校内に備えてある物品とその保管場所の周知を図る。	活動計画 ①両校教職員，幼児・児童生徒や地域の方が使いやすい防災学習室内の物品配置をする。 ②災害避難時に備えて，屋上出入り口周辺に備蓄物品・備蓄場所・備蓄場所までの経路を明記する。 ③①②の確認作業を地域の防災代表の方と一緒に行う。 評価指標 ①誰でもが使いやすいように室内配置できる。 ②屋上出入り口周辺に明記してあることや防災学習室内をホームページにアップできる。 ③両校渉外・安全課員と地域の代表の方との確認作業が1回できる。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度 ① 8 月 3 日に両校渉外・安全課員が本館4階の防災学習室の大掃除を行い，使いやすいように配置換えをし，表示をした。また，地域の方が屋上避難した際，体育館2階倉庫に備蓄している水と食料（徳島市より）を5ケースずつ仮保管することにした。 ② 1 階中央玄関横の鍵保管庫の中に，本校地図や屋上までの経路，防災学習室の写真をラミネートしたものを保管した。 ③ 12 月 23 日に八万地区自治会の防災担当の方 6 名と，本校事務課長と渉外・安全課員で本校へ避難してきた際のシュミレーションを行った。本館 5 階屋上と 4 階防災学習室，体育館アリーナ，倉庫，小体育館，更衣室，多機能トイレ等の確認を行った。	総 合 評 価 (評定) A ----- (所見) 地域の方に実際に自分の目で確認していただくことができ，とても良かった。ただ，本校は寄宿舎閉舎になる金曜夜から月曜朝までは無人になるため，初動は地域の方主導になることを確認もすることができた。8 月と 12 月の様子は本校ホームページにアップすることができた。	今年度はコロナウイルスによる感染拡大を受けて，地域の方との視覚聴覚合同防災学習を開催することができなかったのは，非常に残念であった。しかし，災害はいつ何時起こるとも分からず，地震・津波避難訓練を見直し，密にならない配慮や，各自が自分の頭で行動する訓練を計画することができた。 今後は三密回避や新しい生活様式にのっとった防災学習を地域の方や両校の渉外安全課員を中心に進めて行けたらと考えている。

【研究・情報課】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見	
日本語で思考できる力を高めるために，教職員の指導力を向上させます。 【③】	幼児児童生徒の置かれている状況を把握し，思考力を高める授業をするために必要なことを検討する。	活動計画	活動計画の実施状況	総合評価	教科書や学校で学んだだけでは役にたたないと思う。難聴体験をしなければいけない，体験によって先生方がこうかわるわけだから，難聴がどういうものかと言う基本をわかっているところがあるのかなと思う。まずそこを押さえてほしい。先生一人一人の質を向上していくためにはビデオ分析は非常に有用な方法だと思う。	
		①聞こえにくい状況で思考しながら話を聞くことの難しさを体験する。	①耳栓とイヤマフを使い，１時間程度の聞こえにくさの体験を実施した。一人２回程度実施し，体験後には各学部や各グループでの話し合いを行った。体験後のアンケートには，すべての教職員から回答を得ることができた。 (１００％)	(評定) A		
		②体験したことを通して，幼児児童生徒が思考力を高める授業をするためには，どのようなことが必要かを考える。	②十分に思考することができる環境作りや思考力を高めるための方法について，さまざまな案を得ることができた。 (１００％)	(所見) それぞれの教員が，体験を通して聞きながら思考することの難しさを感じ，幼児児童生徒についての理解を深めることにつながった。聞こえにくさが思考することに影響していることがわかり，きちんと伝わったり思考力が高まったりする方法について考えることができた。		
		③アンケート結果をまとめ，教員間の共有を図る。	③出た意見を回覧やイントラ掲載を通して，教職員全体に周知することができた。 (１００％)			
		評価指標				
		①難聴体験を一人２日程度実施し，難聴体験後のアンケートに，８０％以上の回答を得る。				
		②体験後のアンケートで，８０％以上の教員から思考力を高める方法について回答を得る。				
		③回覧やイントラ掲載を通して，９０％以上の教員がアンケート結果に目を通す。				

【生徒活動課】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		学 校 関 係 者 の 意 見	
幼稚部から高等部の縦のつながりを大切にした活動を通して、他者とよりよく関わる力を育てます。 【②】	全校を通して幼児・児童生徒が縦の関わりを持ち、上級学部学年は下級学部及び下級生へのいたわりや優しさの心を持ち、下級生は上級生との関わりの中でよりよい他者との関わり方が身につくように全教職員が支援する。	活動計画	活動計画の実施状況	総 合 評 価	ヤマモモに聴覚支援学校から見学に来てくれる生徒がいることを通所者の人たちはとても喜んでいる。仲間意識は強く、応援したい意識は強い。	次年度の課題は、全校の幼児・児童生徒がコロナの影響を受けることなく縦の関わりを持てる方法を企画し、２年連続で実施できない状況は回避するようにしたい。そのためには全員が集まらなくても関わりの持てる方法等を考えることが必要であると思われる。
		① 2 学期以降に全校で合同給食タイムもしくは異学部間の交流給食タイムを実施する。 ②小学部 6 年生の部活体験を実施する。	① 2 学期後半に実施予定であったが、コロナ感染予防上各学部でも 3 密対策継続中で、残念ながら実施できなかった。 ②卓球部陸上部ともに 1 2 月に実施。午後 4 時より 1 時間程度 6 年生担任が立ち会い行った。 小学部 6 年生児童数は 2 名。 1 名が部活体験に参加し、実施後のアンケートには楽しかった満足であった。部活動の内容もよく分かったと記入していた。中学部進学後の活動についても前向きな考えが得られた。			
		評価指標			（所見） 縦割り給食は全校幼児・児童生徒が一度に全員で活動する計画は密になり、コロナが終息しなかつ	
		①全校幼児・児童生徒が関わりのもてる給				

		食タイムを年1回以上実施する。 ②実施後に児童生徒対象に事後アンケートを行う。幼児については担当学部教員または保護者に感想を聞く。結果については、各学部で共通理解し、次回への指標とする。 ③2学期後期に小学部6年生児童に卓球部・陸上部それぞれ一日以上の部活体験を実施し終了後にアンケートを行う。		たため実施できなかった。 部活体験は6年生児童の実施後の感想も良く、次年度も継続して実施したいと考えている。	の基本的な部分、まわりの人とうまくやっていけるような子どもを育てるようにしていたら子どもたちの生活がより豊かになっていけるのではと思いました。	
--	--	---	--	---	---	--

【人権・キャリア教育課】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学 校 関 係 者 の 意 見	
発達の段階に応じた勤労観を身につけるため、日常生活や職業生活，進路指導等を充実させます。 【⑤】	①人権に関する研修会を通して，人権を尊重し，いじめを自分のこととしてとらえ，生活を改善していける，幼児・児童生徒を育てる。 ②幼児・児童生徒の発達段階をふまえたキャリア教育の推進をはかる。	活動計画 ①人権に関する生徒対象講演会・映画会等を開催する。（12月）	活動計画の実施状況 評価指標の達成度 ①生徒対象映画会（12月）を実施した。映画会では「パディントン」を鑑賞し，見た目による差別の不合理性，互いを認め合うことの大切さについて考えることができた。映画会のアンケートにおいて，100％の生徒から満足という評価を得た。	総 合 評 価 （評定） A	生徒が『困っていない』と言うアンケート結果が出たが、情報が不足しているからだと思うが危機感が少ない。自分が置かれている状況の判断が・・・危険なことがわかっていのにそこへ行ってしまう。自分の健康状態の把握とまわりへの影響の理解について疑問に思うことがある。 就職する際の採用担当者が求める人材は，知識よりも意識の高い人。自分が何をしようとしているのか，どのような自分で考えてやっていける人，学力よりもまわりとうまくやっていける人を採用したいという声が聞かれた。
		評価指標 ②社会科見学・職場体験（見学）・就業体験などを実施し，職業観を育成する。（7月・11月）	②保護者・職員対象の施設見学（かのん，あぶろーち，いのちのさと）を8月に実施し，就労継続支援や就労移行支援の制度について学んだ。また，中学部生徒3名，高等部生徒4名が職場体験（就業体験）を実施し，社会に出てからのマナーや職業観を身につけることができた。	（所見） 新型コロナウイルスの感染拡大を受け，中・高等部生徒に対して「コロナ禍で困ったこと」についてのアンケートを行った。その結果をもとに，必要な合理的配慮について再検討した。 また，生徒の職場体験，就業体験の機会を確保できるように努め，希望する生徒全員の体験を実施することができた。	
		①人権に関する生徒対象講演会等を1回以上実施し，アンケートにおいて80％以上の満足度を得る。 ②生徒の実態に応じて社会科見学・職場体験（見学）・就業体験などを年間1回以上実施し，職業観を育成する。			

【サポート課】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学 校 関 係 者 の 意 見	
関係機関と連携をとりながら，聴覚	①本校の幼児児童生徒への情報保障の充実を図る。	活動計画 ①感染症対策のため，マスクの着用や距離をとっての学習を行う環境の中で，情報	活動計画の実施状況 評価指標の達成度 ①-1 毎学期の始業式・終業式において，手	総 合 評 価 （評定）	学校以外へのアプローチ。センター的役割として聴覚支援学校へ通っていない子ども

障がいに対する専門的な支援を行い、聴覚障がいや本校の理解啓発に努めます。	【④】	②本校以外に在籍する幼児児童生徒に対して、在籍校や保護者と連携をとりながら、聴覚障がいに対する専門的な支援を行い、聴覚障がいや本校に対する理解啓発に努める。	保障の充実を図る。 ①-1 行事で手話通訳だけでなく、文字情報支援を行う機会を増やす。 ①-2 補聴援助システムの整備を行う。 ①-3 職朝イントラや職員会議等で幼児児童生徒の情報保障についての理解啓発を行う。 ②感染症予防のため、例年実施している夏季補聴相談や本校を会場にしての難聴学級担任者研修会（教育委員会主催）は実施できない。その中で次のことを行う。 ②-1 各家庭に郵送で個別の相談に対応できることを連絡し、相談支援を行う。 ②-2 難聴学級担任を対象にした研修会及び相談会を開催する。	話通訳に加え、文字情報による情報保障を行った。 ①-2 毎学期始めに補聴援助システムの点検を行い、不具合があった場合にはすぐに対応することができた。また、補聴援助システムが整備されていなかった個別指導の教室においては、デジタルワイヤレス補聴援助システムが整備され、使用している。デジタルワイヤレス補聴援助システムは、校外での学習にも有効活用している。 ①-3 職朝イントラや職員会議等で幼児児童生徒の情報保障についての理解啓発を行った。内容は、難聴者のコミュニケーションや心理、補聴援助システム等についてである。年度当初は月 2 回以上年間を重点的に行うことで定着してきたため、年度末にはほとんど行わなかった。	A	（所見） （所見） ①行事で文字による情報保障を行ったり、数種類の補聴援助システムを活用することで、改めて児童生徒の情報保障について検討することができた。 ②新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、地域のセンターとして毎年行ってきた夏季補聴相談等実施できなかったが、郵送や電話等で地域の難聴児や保護者、担任とつながることができ、必要な相談を行うことができた。	たちへの支援が必要。 難聴学級の先生のクオリティをあげてほしい。軽い障害や一側性難聴の子どもはたくさんいるが、親子で孤立していることはよくない、できるだけ関わってほしい。 卒業生と縁が切れてしまう。とくに県外へ行っていると全くわからない。 困っていることもあるとおもうためアプローチしてほしい。	総合教育センター等で行われている研修でちらしを配る等、啓発活動を行いたい。また、難聴学級担任者の研修内容を再検討していきたい。 本年度は卒業生へ案内を送っての補聴相談は行わなかったが、今後は、人権・キャリア教育課と連携しながら卒業生への支援も行っていきたい。
			評価指標 ①-1 始業式・終業式で手話通訳に加えて文字情報支援ができる。 ①-2 幼児児童生徒全員が補聴援助システムの活用ができるよう、個々の補聴器や教室の補聴援助システムの点検を毎学期行う。不具合がある場合にはすぐに対応する。 ①-3 月に2回以上、職朝イントラネットや職員会議等で情報提供を行う。 ②-1 来校や巡回相談の希望がある場合は日程を調整し、希望者全員に支援を行う。 ②-2 研修会及び相談会を、年間1回以上行う。	②-1 48 人に連絡をし、希望のあった 23 人全員に対し、来校または巡回相談を行った。 ②-2 県内の小中学校の特別支援学級（難聴）の担任を対象とした研修会を2回実施した。内容は、校医の島田亜紀先生の講演と情報交換である。				

【寄宿舍】

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学 校 関 係 者 の 意 見	
寄宿舍生活を通して得られた生徒の成長を保護者と共有し、連携を深めます 【⑥】	①寄宿舍生活を通して、舎生の生活スキルの向上を図る。 ②保護者との情報共有を進め、連携を深める。	活動計画 ①健康で安全に生活する力の向上を目指した活動を推進する。 ②保護者に向けて、寄宿舍生活の情報発信を行い、連携を図る。	活動計画の実施状況 評価指標の達成度 ①舎生を対象に各学期に1回、全3回の感染症予防に関する講習を実施した。動画の視聴後、ワークシートを用いて、基本的生活習慣を振り返る機会を設けた。 ②寄宿舍だよりやHPを通じて、年19回の情報発信を行った。	総 合 評 価 （評定） A	・日頃の衛生指導の中でも、講習で学んだことに触れ、舎生の感染症予防意識が向上してきている。舎生の実態に合わせて、必要があれば、今後もこのような場を設けていきたい。 ・保護者との情報共有は、今後もHPや連絡帳、直接のやりとりを通じて、連携を継続する。 ・次年度は、更に保護者以外の方々にも、寄宿舍の情報を発信し、魅力ある寄宿舍作りに努めていきたい。
		評価指標 ①舎生対象の感染症予防に関する講習を学期に1回以上行う。 ②寄宿舍だよりの発行やHPの更新を合わせて年12回以上行う。		（所見） ・動画やワークシートの活用により、手洗い、消毒、うがい等を自主的に行うことができるようになった。また、生活習慣を振り返ったことにより、自らの課題に気づくことがで	

				き，意識の向上につながった。 ・ 寄宿舍送迎時や家庭との連絡帳を利用して，HP更新の連絡を行い，保護者との情報共有を図ることにより，連携を深めることができた。		
--	--	--	--	--	--	--

「評価」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった